



大阪市立大学「人工光合成研究拠点」 第2回講演会開催

2017年2月1日(水)に人工光合成研究拠点第2回講演会が触媒学会生体関連触媒研究会共催のもと開催されました。講師として、国立研究開発法人産業技術総合研究所再生可能エネルギー研究センター 眞中雄一博士をお招きし、水素エネルギー社会への技術開発についてお話し頂きました。今回のご講演は、水素エネルギー社会を実現するためのエネルギーキャリア分子の合成にかかわる最先端研究に関するもので、二酸化炭素を水素と反応させて分子変換する分子・生体触媒のプロセス化を指向した合成と分析について紹介いただきました。

また2014年4月福島県郡山市に開所した再生可能エネルギーセンターの取り組みについてもご説明頂きました。研究拠点としてのあり方、目指すべきところなどを具体的にお話し頂き、再生可能エネルギーに関する新技術を生み出し発信するための拠点として広く活動されていることが分かりました。人工光合成にかかわる研究拠点として本センターを運営していくうえでの、貴重な情報やアドバイスを賜ることができたと思います。



眞中雄一博士



大阪市立大学「人工光合成研究拠点」 第3回講演会開催

2017年2月20日(月)には、同じく触媒学会生体関連触媒研究会共催のもと人工光合成研究拠点第3回講演会が開催されました。はじめに、香川大学医学部 和田健司教授から、担体・金属間の相互作用を活かした有機合成用固体触媒の開発に関する講演をいただきました。和田教授は、酸化セリウム等の金属酸化物に金属錯体を吸着させ、表面上で構造変換することによって来の固体触媒や金属錯体触媒よりも飛躍的に活性の高い触媒種を発生させることに成功されました。



和田健司教授

続いて、首都大学東京大学院都市環境科学研究科 宍戸哲也教授による合金ナノ粒子担持触媒を用いた選択的物質変換及び水素製造に関する講演がありました。金属酸化物触媒に担持された合金ナノ粒子の構造(サイズや組成)を緻密に制御することによって物質変換効率や選択性が飛躍的に向上することを示されると共に、各種分光法を駆使した合金ナノ粒子の局所構造解析についても説明されました。両講演とも人工光合成に深く関わるものでした。講演会では、学外からの参加もあり、また参加した学生さんからもたくさんの質問があり活発な講演会となりました。今後も定期的に講演会を開催いたしますので人工光合成拠点のホームページやFacebookで最新情報をチェックしてください。



宍戸哲也教授

人工光合成研究拠点 ニュースレター
第1巻・第3号平成29年3月8日発行
発行責任者: 天尾 豊(大阪市立大学人工光合成研究センター所長)
編集責任者: 吉田朋子(同副所長)
<http://recap.osaka-cu.ac.jp/ap-coe/index.html>